

2010/7/14

柏の景気情報（平成22年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年6月分）

○ 調査期間 : 平成22年6月16日 ～ 6月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	68	63.6%
建設	19	13	68.4%
製造	23	14	60.9%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	12	54.5%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年6月の調査結果のポイント】

《業況DIはほぼ横ばい》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.6(前月水準▲43.0)となり、マイナス幅が△0.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲50.0)、製造業±0.0(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.1(同▲33.3)、卸小売業▲65.5(同▲62.9)である。

【建設業】からは、「見積り時点での採算が合わず辞退せざるを得ない場合もある。品質の低下を懸念する」(電気工事業)等のコメントが寄せられた。

【製造業】からは「電子パーツ等が中国へ大幅に流れているため、納期確保に苦労している。引き合い、受注量が増えてこそ「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関係業者からは中国の好景気がまだ続きそうのため、中国からの大量注文が継続的に続いていて、国内メーカーからの受注品確保に苦労しているとのこと」(その他の機械・同部分品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「梅雨入りをしたが、天候の乱れや不安定さが生産物にも影響している状況。そのため野菜が単価安であったり、単価高であるものもあり安定しない。果実も同様の状況全体的には気が抜けない入荷減、売上減の販売で流通経路の変化が生じています」(食料・飲料卸売業)、「スポーツ衣料部門が販売競争の激化で今期は前年比売上5%減の予想。経費削減や仕入れ努力により経常益はプラス予想。大手との競合、低価格競争の時代に、商品の選別、販売価格等厳しい局面が続くと思う。当面は立地条件や経営基盤の無い中小業者の淘汰が続くと思う」(その他の飲食料品小売業)、「依然、前年数字をクリアできない業況が続いている。今年も夏物衣料品の見切り時期が早まりそうで、採算悪化が心配される」(その他の各種商品小売業)などといった声も寄せられた。

【サービス業】では、「7月の参議院選挙の結果で景気が左右されそうな気がします」(理容業)といったコメントがあった。

◎好材料なし

各業種から、「良い材料はありません」(一般土木建築工事業)、「ボーナス時期でもあり、資金調達に苦慮しています。今後大幅に利益が上がる材料が無いので、ここでボーナス支給をどうするか考え中です」(管工事業)などの声が寄せられた。

◎先行き不透明

各業種から、「消費者は子ども手当により多少の余裕は出るのかもしれないが、まだまだ先行きがわからないため、とりあえず預金している状態ではないか」(古紙卸売業)、「前月は売り上げが17カ月ぶりに前年同月とほぼ同水準まで盛り返すなど、好転(下げ止まり)の兆しが強い。しかしながら6月に関しては前年ほどの勢いがみられず楽観ができない状況である」(百貨店)などのコメントが寄せられている。

◎買い控え

各業種から、「6月度月初は天候にも恵まれたことから夏物需要が高まり、入店客数・売り上げともに前年を上回る推移となった。2週目に入ると入店客数が低調な推移となったことから、客数減の影響を受けた雑貨業種、飲食業種の苦戦が目立ったが、衣料品店舗で順次VIPセールを開催したため、売上高に大きな落ち込みは見られなかった。月末にかけては周辺SCのセールが実施されることや、セール前の買い控えも予想されることから、接客を強化し売上につなげていく」(各種商品小売業)、「対前年比来客数は若干増であるが、客単価は90%に減っている。これも不景気故の買い控えなのか」(公衆浴場業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	±0.0	▲65.5	▲33.3
見通し	▲35.2	▲30.7	▲7.1	▲51.7	▲33.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.6(前月水準▲43.0)となり、マイナス幅が△0.4ポイント縮小した。

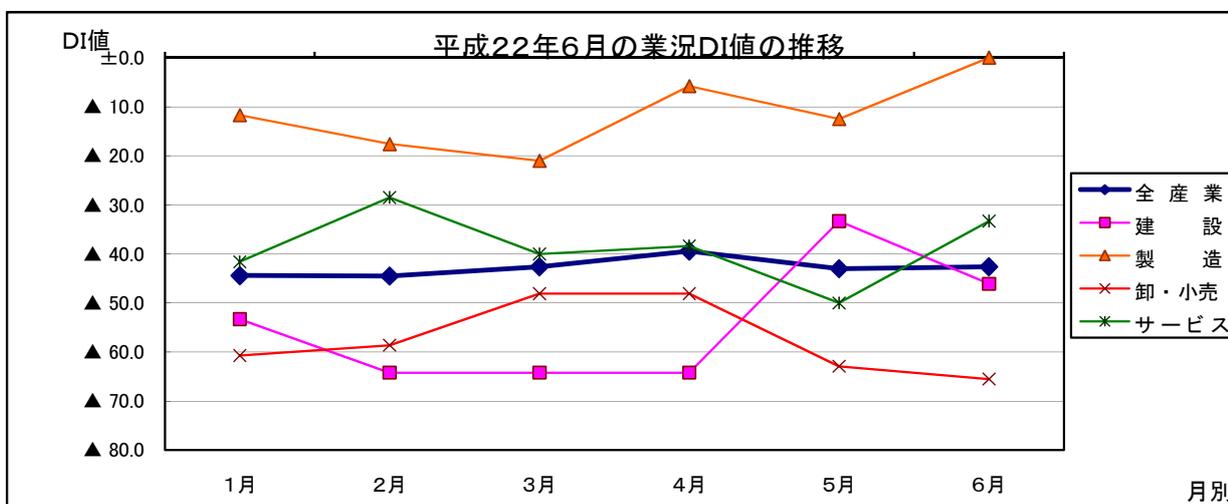
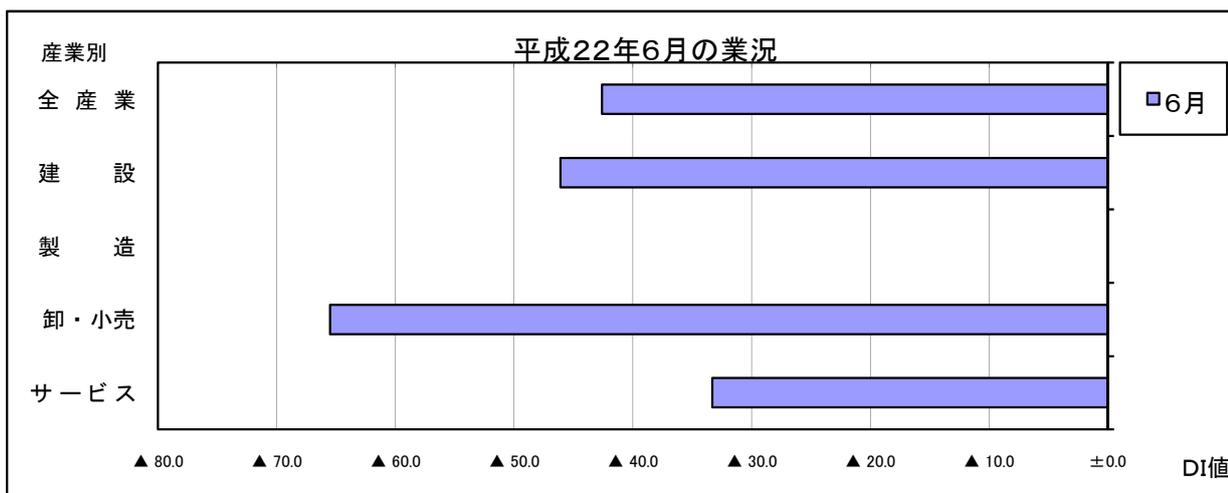
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲50.0)、製造業±0.0(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.1(同▲33.3)、卸小売業▲65.5(同▲62.9)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.2(前月水準▲37.5)となり、マイナス幅が△2.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲57.1)、製造業▲7.1(同▲12.5)、卸小売業▲51.7(同▲55.5)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△23.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲30.7(同▲13.3)である。

平成22年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲44.4	▲44.5	▲42.6	▲39.4	▲43.0	▲42.6	▲35.2(▲37.5)
建設	▲53.3	▲64.2	▲64.2	▲64.2	▲33.3	▲46.1	▲30.7(▲13.3)
製造	▲11.7	▲17.6	▲21.0	▲5.8	▲12.5	±0.0	▲7.1(▲12.5)
卸・小売	▲60.7	▲58.6	▲48.1	▲48.1	▲62.9	▲65.5	▲51.7(▲55.5)
サービス	▲41.6	▲28.5	▲40.0	▲38.4	▲50.0	▲33.3	▲33.3(▲57.1)



【平成22年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.2(前月水準▲36.1)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。

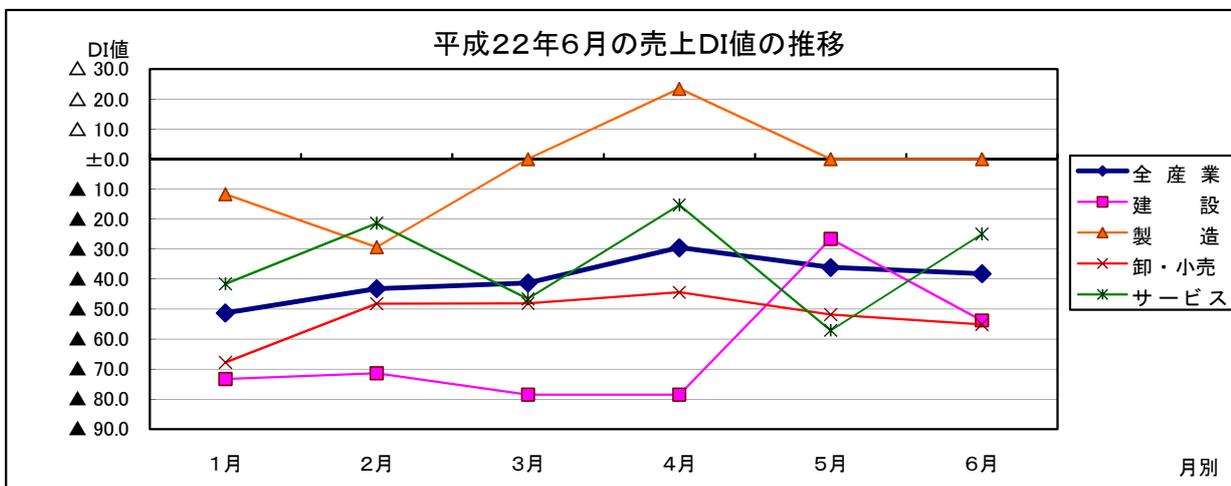
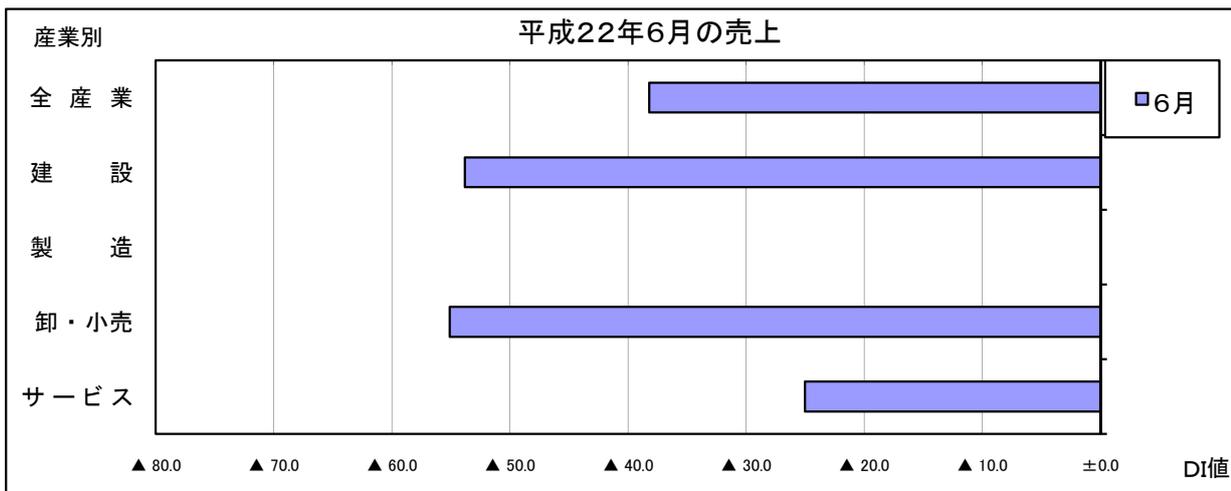
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲25.0(同▲57.1)であり、マイナス幅が△32.1ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲53.8(同▲26.6)、卸小売業▲55.1(同▲51.8)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲27.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.8(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が▲11.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲23.0(同▲26.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲51.7(同▲37.0)、サービス業▲41.6(同▲35.7)である。

平成22年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 41.3	▲ 29.5	▲ 36.1	▲ 38.2	▲ 33.8 (▲ 22.2)
建設	▲ 73.3	▲ 71.4	▲ 78.5	▲ 78.5	▲ 26.6	▲ 53.8	▲ 23.0 (▲ 26.6)
製造	▲ 11.7	▲ 29.4	±0.0	△ 23.5	±0.0	±0.0	±0.0 (△ 18.7)
卸・小売	▲ 67.8	▲ 48.2	▲ 48.1	▲ 44.4	▲ 51.8	▲ 55.1	▲ 51.7 (▲ 37.0)
サービス	▲ 41.6	▲ 21.4	▲ 46.6	▲ 15.3	▲ 57.1	▲ 25.0	▲ 41.6 (▲ 35.7)



【平成22年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲51.4(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

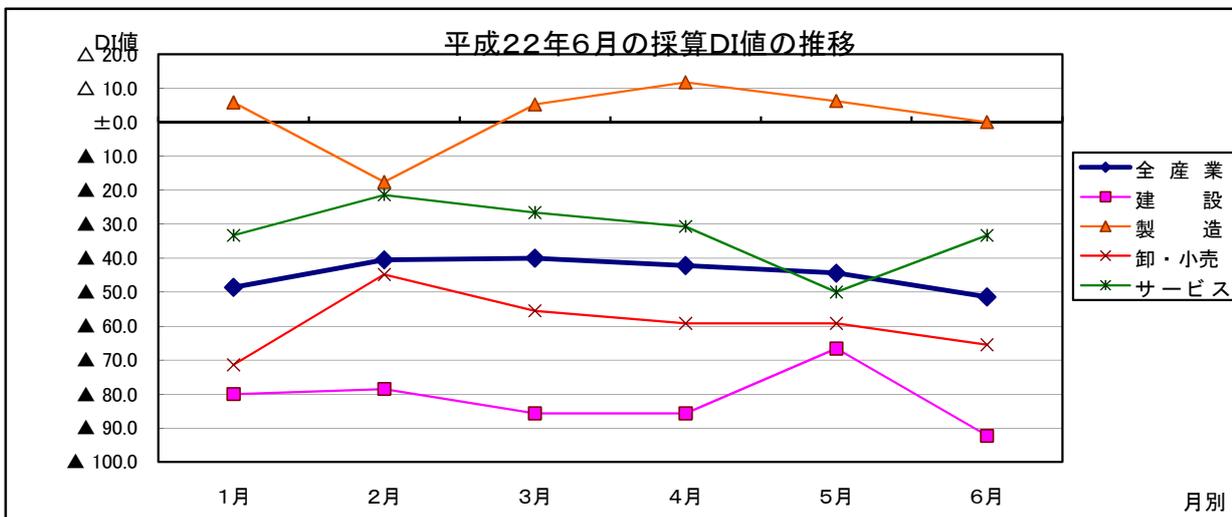
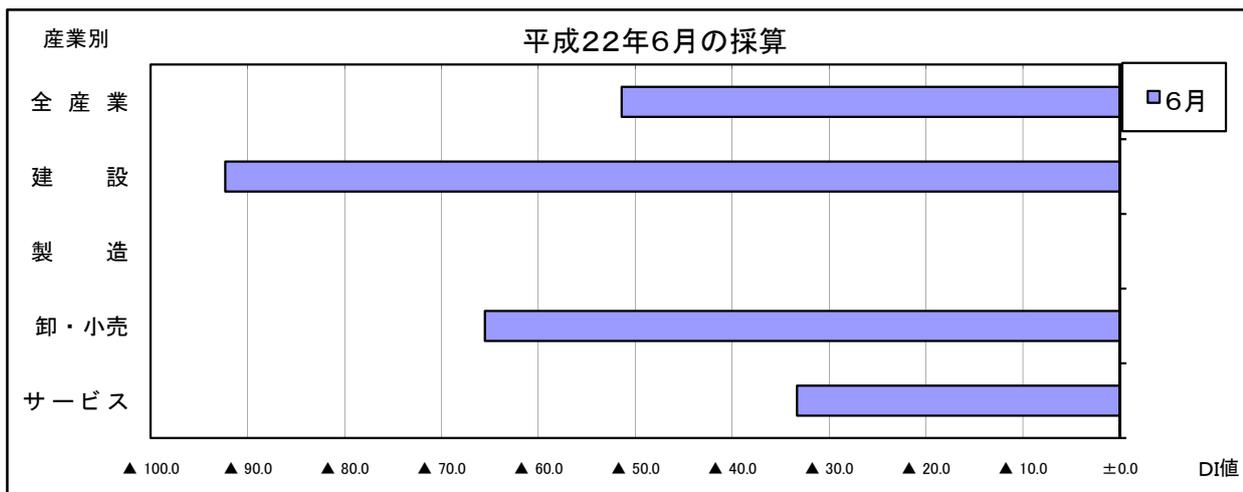
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲33.3(同▲50.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲92.3(同▲66.6)、卸小売業▲65.5(同▲59.2)であり、特に、建設業はマイナス幅が△25.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲41.1(前月水準▲29.1)となり、マイナス幅が▲12.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.1(同▲40.7)、サービス業▲41.6(同▲35.7)、建設業▲53.8(同▲40.0)である。

平成22年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲ 48.6	▲ 40.5	▲ 40.0	▲ 42.2	▲ 44.4	▲ 51.4	▲ 41.1 (▲ 29.1)
建設	▲ 80.0	▲ 78.5	▲ 85.7	▲ 85.7	▲ 66.6	▲ 92.3	▲ 53.8 (▲ 40.0)
製造	△ 5.8	▲ 17.6	△ 5.2	△ 11.7	△ 6.2	±0.0	±0.0 (△ 6.2)
卸・小売	▲ 71.4	▲ 44.8	▲ 55.5	▲ 59.2	▲ 59.2	▲ 65.5	▲ 55.1 (▲ 40.7)
サービス	▲ 33.3	▲ 21.4	▲ 26.6	▲ 30.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 41.6 (▲ 35.7)



【平成22年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.9(前月水準▲20.8)となり、マイナス幅が▲7.1ポイント拡大した。

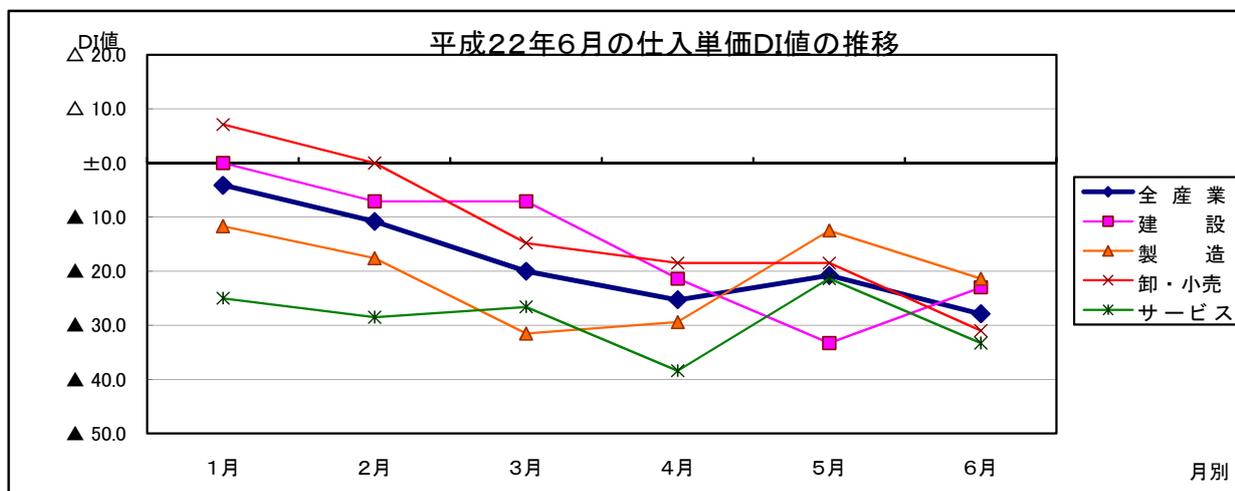
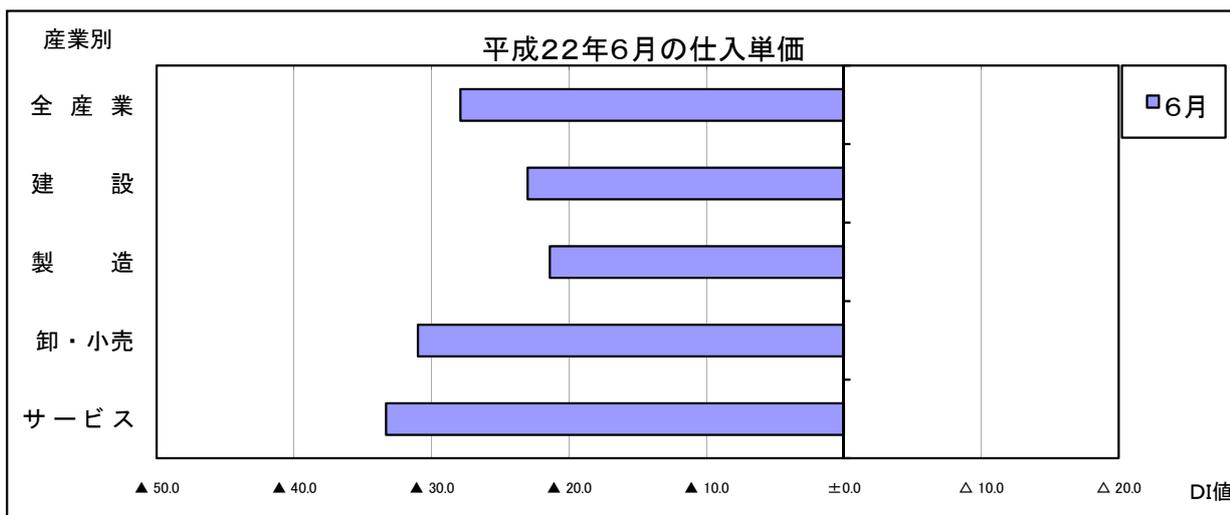
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲23.0(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.0(同▲18.5)、サービス業▲33.3(同▲21.4)、製造業▲21.4(同▲12.5)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.0(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲13.7(同▲25.9)、サービス業▲33.3(同▲35.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲30.7(同▲26.6)、製造業▲21.4(同▲18.7)である。

平成22年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲4.1	▲10.8	▲20.0	▲25.3	▲20.8	▲27.9	▲22.0(▲26.3)
建設	±0.0	▲7.1	▲7.1	▲21.4	▲33.3	▲23.0	▲30.7(▲26.6)
製造	▲11.7	▲17.6	▲31.5	▲29.4	▲12.5	▲21.4	▲21.4(▲18.7)
卸・小売	△7.1	±0.0	▲14.8	▲18.5	▲18.5	▲31.0	▲13.7(▲25.9)
サービス	▲25.0	▲28.5	▲26.6	▲38.4	▲21.4	▲33.3	▲33.3(▲35.7)



【平成22年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.4(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大した。

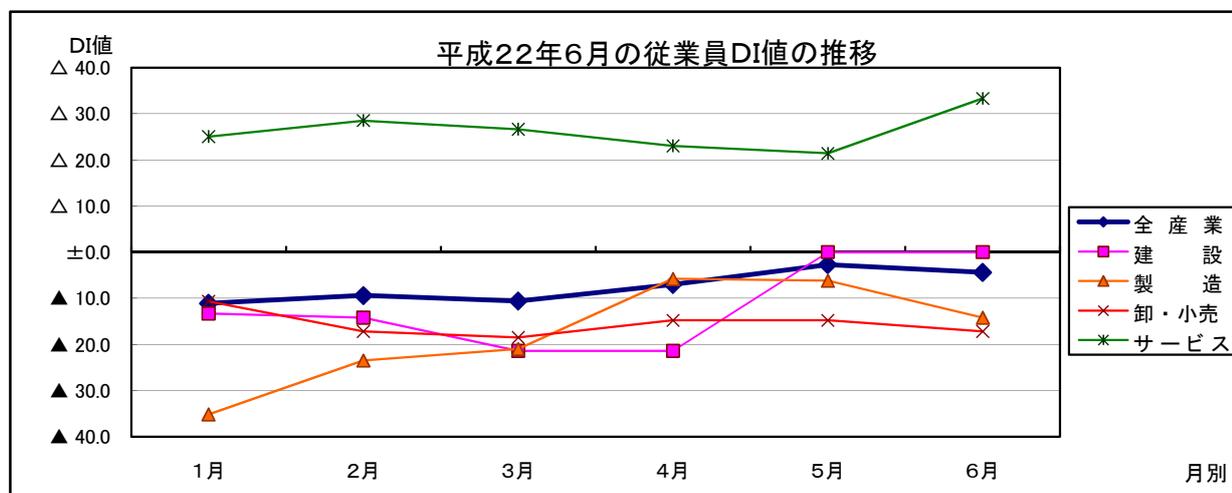
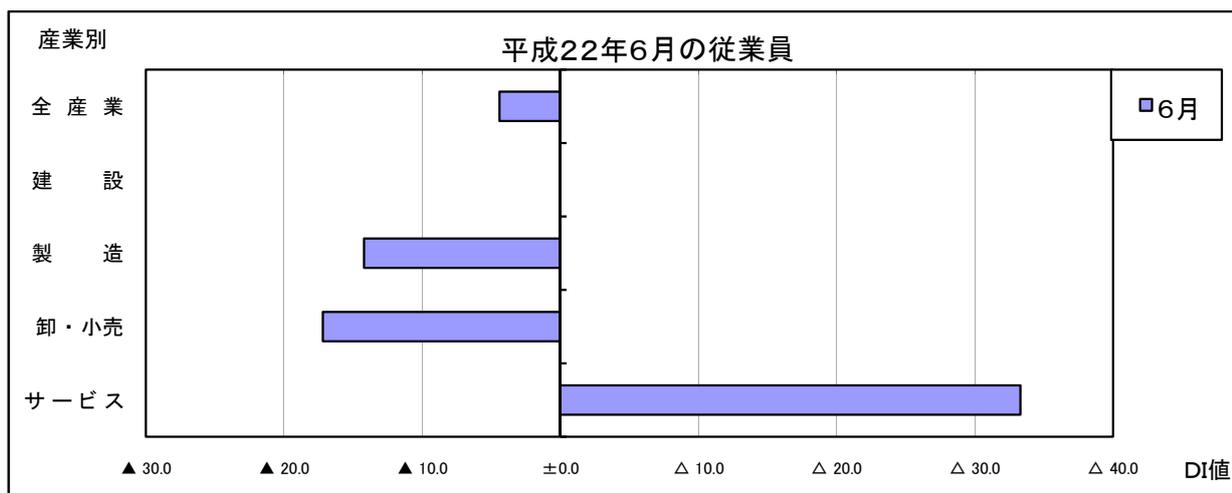
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△33.3(同△21.4)である。変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同▲6.2)、卸小売業▲17.2(同▲14.8)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.3(前月水準▲5.5)となり、マイナス幅が▲1.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△25.0(同△21.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲6.6)、卸小売業▲17.2(同▲18.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲21.4(同▲6.2)である。

平成22年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月～9月(6月～8月)
全産業	▲11.1	▲9.4	▲10.6	▲7.0	▲2.7	▲4.4	▲7.3(▲5.5)
建設	▲13.3	▲14.2	▲21.4	▲21.4	±0.0	±0.0	±0.0(▲6.6)
製造	▲35.2	▲23.5	▲21.0	▲5.8	▲6.2	▲14.2	▲21.4(▲6.2)
卸・小売	▲10.7	▲17.2	▲18.5	▲14.8	▲14.8	▲17.2	▲17.2(▲18.5)
サービス	△25.0	△28.5	△26.6	△23.0	△21.4	△33.3	△25.0(△21.4)



【平成22年6月の資金繰りについての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲34.7)となり、マイナス幅が△9.7ポイント縮小した。

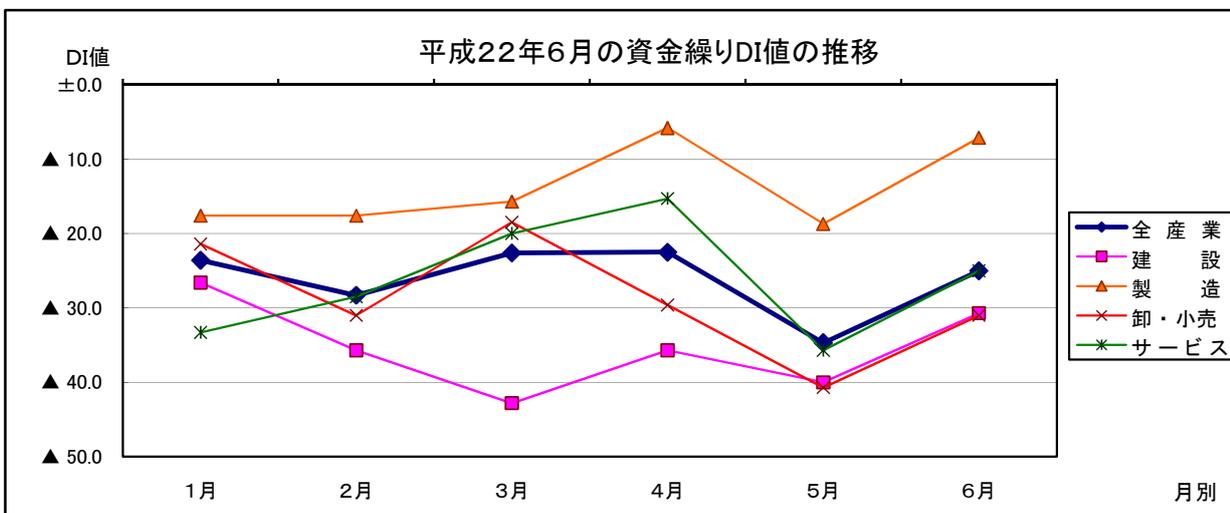
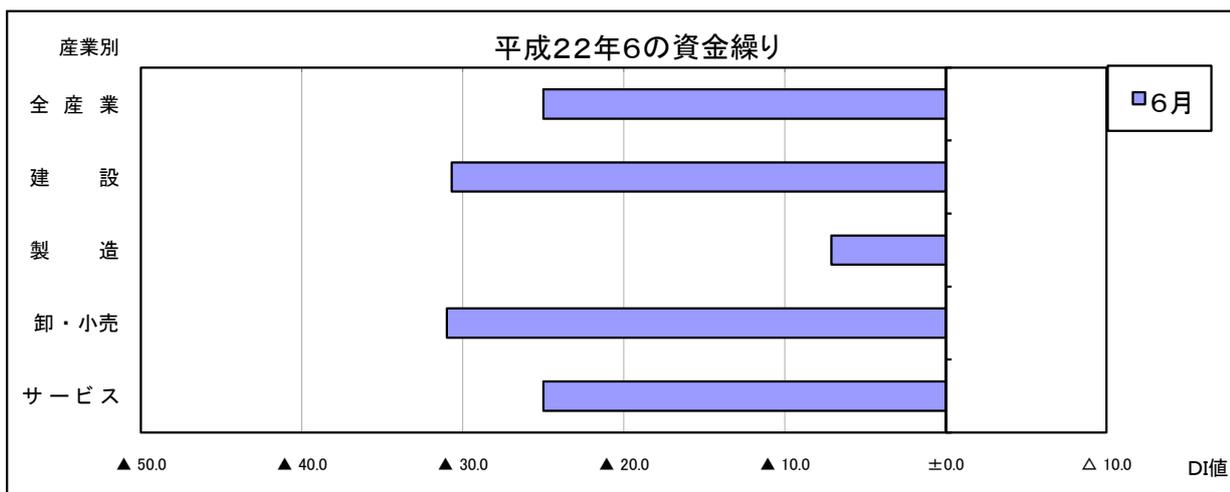
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲18.7)、サービス業▲25.0(同▲35.7)、卸小売業▲31.0(同▲40.7)、建設業▲30.7(同▲40.0)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.6(前月水準▲29.1)となり、マイナス幅が△11.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種においてマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、卸小売業▲24.1(同▲44.4)、サービス業▲25.0(同▲35.7)、建設業▲7.6(同▲13.3)、製造業▲7.1(同▲12.5)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△20.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成22年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲23.6	▲28.3	▲22.6	▲22.5	▲34.7	▲25.0	▲17.6(▲29.1)
建設	▲26.6	▲35.7	▲42.8	▲35.7	▲40.0	▲30.7	▲7.6(▲13.3)
製造	▲17.6	▲17.6	▲15.7	▲5.8	▲18.7	▲7.1	▲7.1(▲12.5)
卸・小売	▲21.4	▲31.0	▲18.5	▲29.6	▲40.7	▲31.0	▲24.1(▲44.4)
サービス	▲33.3	▲28.5	▲20.0	▲15.3	▲35.7	▲25.0	▲25.0(▲35.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 38.2	▲ 33.8	▲ 51.4	▲ 41.1	▲ 27.9	▲ 22.0	▲ 4.4	▲ 7.3
建設	▲ 53.8	▲ 23.0	▲ 92.3	▲ 53.8	▲ 23.0	▲ 30.7	±0.0	±0.0
製造	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 21.4
卸・小売	▲ 55.1	▲ 51.7	▲ 65.5	▲ 55.1	▲ 31.0	▲ 13.7	▲ 17.2	▲ 17.2
サービス	▲ 25.0	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 33.3	△ 33.3	△ 25.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 42.6	▲ 35.2	▲ 25.0	▲ 17.6
建設	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 7.6
製造	±0.0	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 7.1
卸・小売	▲ 65.5	▲ 51.7	▲ 31.0	▲ 24.1
サービス	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0

【平成22年6月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	良い材料はありません	好材料なし	一般土木建築工事業
	ボーナス時期でもあり、資金調達に苦慮しています。今後大幅に利益が上がる材料が無いので、ここでボーナス支給をどうするか考え中です。	ボーナス 資金繰り困難 好材料なし	管工事業(さく井を除く)
	見積もりの時点で採算が合わず辞退せざるを得ない場合もある。品質の低下を懸念する。	不採算 品質低下	電気工事業
製造	電子パーツ等が中国へ大幅に流れているため、納期確保に苦労している。引き合い、受注量が増えてこそ「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関係業者からは中国の好景気がまだ続きそうなので、中国からの大量注文が継続的に続いていて、国内メーカーからの受注品確保に苦労しているとのこと。	納期確保困難 景気回復実感なし 中国の好景気 国内メーカー受注確保	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	サラリーマンの平均お小遣いが3万円代まで落ちたらしい。柏の飲食店はピンチだと思ふ。		食料・飲料卸売業
	消費者は子ども手当により多少の余裕は出るのかもしれないが、まだまだ先行きがわからないため、とりあえず預金している状態ではないか。前月は売り上げが17カ月ぶりに前年同月とほぼ水準まで盛り返すなど、好転(下げ止まり)の兆しが強い。しかしながら6月に関しては前年ほどの勢いがみられず楽観ができない状況である。	子ども手当 先行き不透明 下げ止まりの兆し 先行き不透明	古紙卸売業 百貨店
	4月末、5月末に新規テナントがオープンし、入店客増につながっていますが、反面仕入単価上昇にもなっている。	新規オープン 入店客数増加 仕入単価上昇	百貨店
	梅雨入りをしたが、天候の乱れや不安定さが生産物にも影響している状況。そのため野菜が単価安であったり、単価高であるものもあり安定しない。果実も同様の状況全体的には気が抜けない入荷減、売上減の販売で流通経路の変化が生じています。	天候の影響 青果物単価不安定 流通経路の変化	食料・飲料卸売業
	スポーツ衣料部門が販売競争の激化で今期は前年比売上5%減の予想。経費削減や仕入れ努力により経常益はプラス予想。大手との競争、低価格競争の時代に、商品の選別、販売価格等厳しい局面が続くと思う。当面は立地条件や経営基盤の無い中小業者の淘汰が続くと思う。	販売競争激化 経費削減 低価格競争 中小業者の淘汰	その他の飲食料品小売業
	仕入単価が安定しないので耐久期間の見直しがたまたま、岐路に立たされている。新規採用した社員の活躍に期待。	仕入単価不安定 新規採用	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	デジタル化の影響が出版、書籍販売業界にでてくるのか、iPad、キンドル等教科書のデジタル化も政府目標は2015年に設定された	デジタル化	書籍・文房具小売業
	政治不安や給与から税金を引いた手取り額の減少などが問題。また、定休日が無く人件費の削減ができず、現状の売り上げでは経費をかけた企画も実行しにくい。	政治不安 手取り額減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	依然、前年数字をクリアできない業況が続いている。今年も夏物衣料品の見切り時期が早まりそうで、採算悪化が心配される。	採算悪化	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	6月度月初は天候にも恵まれたことから夏物需要が高まり、入店客数・売り上げとも前年を上回る推移となった。2週目に入ると入店客数が低調な推移となったことから、客数減の影響を受けた雑貨業種、飲食業種の苦戦が目立ったが、衣料品店舗で順次VIPセールを開催したため、売上に大きな落ち込みは見られなかった。月末にかけては周辺SCのセールが実施されることや、セール前の買い控えも予想されることから、接客を強化し売上につなげていく。	夏物需要高まり 入店客数減少 飲食業苦戦 買い控え	各種商品小売業
7月の参議院選挙の結果で景気が左右されそうな気がします。	参議院選挙の影響	理容業	
対前年比来客数は若干増であるが、客単価は90%に減っている。これも不景気故の買い控えなのか	客単価減少 買い控え	公衆浴場業	

◎好材料なし

- ・ 良い材料はありません
- ・ ボーナス時期でもあり、資金調達に苦慮しています。今後大幅に利益が上がる材料が無いので、ここでボーナス支給をどうするか考え中です。

◎先行き不透明

- ・ 消費者は子ども手当により多少の余裕は出るのかもしれないが、まだまだ先行きがわからないため、とりあえず預金している状態ではないか。
- ・ 前月は売上げが17カ月ぶりに前年同月とほぼ同水準まで盛り返すなど、好転(下げ止まり)の兆しが強い。しかしながら6月に関しては前年ほどの勢いがみられず楽観ができない状況である。

◎買い控え

- ・ 6月度月初は天候にも恵まれたことから夏物需要が高まり、入店客数・売上げともに年前を上回る推移となった。2週目に入ると入店客数が低調な推移となったことから、客数減の影響を受けた雑貨業種、飲食業種の苦戦が目立ったが、衣料品店舗で順次VIPセールを開催したため、売上高に大きな落ち込みは見られなかった。月末にかけては周辺SCのセールが実施されることや、セール前の買い控えも予想されることから、接客を強化し売上につなげていく。
- ・ 対前年比来客者数は若干増であるが、客単価は90%に減っている。これも不景気故の買い控えなのか

平成22年6月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.6に対し、「CCI-LOBO」が▲40.5で、柏の方がマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.2に対し、「CCI-LOBO」が▲34.1で、柏の方がマイナス幅が4.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲51.4に対し、「CCI-LOBO」が▲37.4で、柏のほうがマイナス幅が14.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.3で、柏の方がマイナス幅が9.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.4に対し、「CCI-LOBO」が▲11.2で、柏の方がマイナス幅が6.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.0に対し、「CCI-LOBO」が▲26.4で、柏の方がマイナス幅が1.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

平成22年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 42.6	 46.1	 ±0.0	 65.5	 33.3
CCI LOBO	 40.5	 58.1	 25.1	 41.8	 45.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 38.2	 53.8	 ±0.0	 55.1	 25.0
CCI LOBO	 34.1	 47.7	 14.6	 40.5	 38.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 51.4	 92.3	 ±0.0	 65.5	 33.3
CCI LOBO	 37.4	 52.1	 27.1	 35.0	 42.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 27.9	 23.0	 21.4	 31.0	 33.3
CCI LOBO	 18.3	 32.9	 26.1	 6.0	 18.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.4	 ±0.0	 14.2	 17.2	 33.3
CCI LOBO	 11.2	 24.3	 11.5	 5.2	 8.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.0	 30.7	 7.1	 31.0	 25.0
CCI LOBO	 26.4	 39.1	 22.8	 24.1	 27.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(6月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年6月16日～22日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数68

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	0.0	▲65.5	▲33.3
見通し	▲35.2	▲30.7	▲7.1	▲51.7	▲33.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIはほぼ横ばい

6月の全産業合計のDIは(前年同月比ベース、以下同じ)は42.6(前月水準43.0)となり、マイナス幅が0.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業 33.3同、50.0、製造業±0.0同、12.5である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業 46.1同、33.3、卸小売業 65.5。

5(同 62.9)である。

【建設業】からは、「見積もりの時点で採算が合わず辞退せざるを得ない場合もある。品質の低下を懸念する」(電気工事業)等のコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「電子パーツ等が中国へ大幅に流れているため、納期確保に苦労している。引き合い、受注量が増えてくず、景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関係業者からは中国の好景気がまだ続きそうなので、中国からの大量注文が継続的に続いていて、国内メーカーからの受注品確保に苦労しているとのこと(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「梅雨入りをしたが、天候の乱れや不安定さが生産物にも影響している状況。そのため野菜が単価安であったり、単価高であるものもあり安定しない。果実も同様の状況全体的には気が抜けない入荷減、売上減の販売で流通経路の変化が生じています」(食料・飲料卸売業)、「スポーツ衣料部門が販売競争の激化で今期は前年比売上5%減の予想。経費削減や仕入れ努力により経常利益はプラス予想。大手との競争、低価格競争の時代

に、商品の選別、販売価格等厳しい局面が続くと思う。当面は立地条件や経営基盤の無い中小業者の淘汰が続くと思う」(その他の飲食料品小売業)、「依然、前年数字をクリアできない業況が続いている。今年も夏物衣料品の見切り時期が早まりそうなので、採算悪化が心配される」(その他の各種商品小売業)などといった声も寄せられた。

【サービス業】では、「7月の参議院選挙の結果で景気が左右されそうなお気があります」(理容業)といったコメントがあった。

好材料なし

各業種から、「良い材料はありません」(一般土木建築工事業)、「ボーナス時期でもあり、資金調達に苦労しています。今後大幅に利益が上がる材料が無いので、ここでボーナス支給をどうするか考え中です」(管工事業)などの声が寄せられた。

先行き不透明

各業種から、「消費者は子ども手当により多少の余裕は出るのかもわからないが、まだまだ先行きがわからないため、とり

あえず預金している状態ではないか」(古紙卸売業)、「前月は売り上げが17カ月ぶりに前年同月とほぼ同水準まで盛り返すなど、好転(下げ止まり)の兆しが強い。しかしながら6月に閉じては前年ほどの勢いがみられず楽観ができない状況である」(百貨店)などのコメントが寄せられている。

買い控え

各業種から、「6月度月初は天候にも恵まれたことから夏物需要が高まり、入店客数・売り上げともに前年を上回る推移となった。2週目に入ると入店客数が低調な推移となったことから、客数減の影響を受けた雑貨業種、飲食業種の苦戦が目立ったが、衣料品店舗で順次VIPセールを開催したため、売上高に大きな落ち込みは見られなかった。月末にかけては周辺SCのセールが実施されることや、セールの買い控えも予想されることから、接客を強化し売上に近づけていく」(各種商品小売業)、「対前年比来客者数は若干増であるが、客単価は90%に減っている。これも不景気故の買い控えなのか」(公衆浴場業)などのコメントが寄せられた。

CCI LOBOVの比較

全産業合計では、「柏の景気」が42.6に対し、「CCI LOBOV」が40.5で、柏の方がマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。

CCIBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：平成22年6月16日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2653業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは改善の勢いに一服感

6月の全産業合計の業況DIは40.5(前月比0.8ポイント)と、前月(39.7)からほぼ横ばいで推移した。業況は持ち直しの動きが続いているものの、先月まで続いていた改善の勢いに一服感が出ている。景気回復の自律性はまだまだ弱く、競争激化による低価格での受注確保や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、収益確保は難しい状況が続いている。各地からは「中小企業は、まだまだ企業ほど景気回復の実感はない」との声が寄せられている。

先行きについては、3.5

3(前月比+1.2ポイント)と、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。前月と比べ、製造業とサービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種はマイナス幅が縮小した。受注や来客数の増加など、好転の兆しが見えることから、先行きに期待する声が多い。しかし、依然として一部原材料価格の上昇、高止まりや公共工事の減少、宮崎県における口蹄疫の影響が今後の懸念材料となっており、先行き見通しには慎重な声が多い。

【建設業】「民間工事における大

手ゼネコンのダンピング受注が横行している」「一般土木建築事業」「地元自治体からの工事発注量が激減し、経営は危機的状況」「一般土木建築事業」「昨年に比べて新築住宅の注文が増加傾向にある」「(建築事業)

【製造業】「主原料である鉄鋼価格の上昇が今後の業績に悪影響を及ぼす見通し」「その他の金属製品製造業」「仕事量は増加傾向にあるが、受注単価が大幅に落ち込んでおり収益確保が困難」「(その他の機械・同部分製造業)」「原材料価格の上昇し、製品の販売価格への転嫁が喫緊の課題」「(鉄素形材製造業)

【卸売業】「県内地場スーパーに卸売りをやっているが、県外資本の大手スーパーとの価格競争が激しく、厳しい経営環境が続いている」「(各種商品卸売業)」「取引先からの値下げ圧力が強く、薄利多売で何とか利益を確保している状況」「(農畜産物・水産物卸売業)」「エコカー減税・補助金の政策効果により売上は堅調だが、エコカー補助金が9月末で期限切れを迎えることから、10月以降の売上見通しが不透明」「(自動車卸売業)

【小売業】「天候不順に伴う野菜・果物の価格高騰が終息した」「(百貨店・総合スーパー)」「家電では薄利多売の売上が好調を維持している」「(百貨店・総合スーパー)

1)「今年10月に実施予定のたばこ増税に伴って売上の減少を懸念している」「(商店街)

【サービス業】「素材メーカーを中心に陸上輸送量が前年より増加している」「(運送業)」「取引先が価格交渉に厳格な態度で臨むようになったため、営業利益が落ち込んでいる」「(ソフトウェア業)」「施設内の設備投資を行う必要があるが、厳しい経営環境が続いており、なかなか手をつけられない状況」「(旅館)

六月のキーワード

仕入価格の上昇・高止まりによる影響

依然として多くの原材料や仕入価格の上昇・高止まりによる収益への悪影響を訴える声が根強い。

受注量は回復しているが、原材料価格の急上昇により、収益の確保が困難(佐野・金属加工機械製造業)、「前年同月より売上は増加しているが、原材料価格の高騰により収益が改善する見通しは立っていない」「(川崎・通信機関連製造業)」「アルコール類や食材の仕入価格が前月より更に上昇している

一方、販売価格への転嫁が難しく、採算面に悪影響を及ぼしている(海老名・その他の一般飲

食店

受注売上持ち直しの動き

受注・購入単価は低迷が続いているものの、製造業における受注量や百貨店における来客数が徐々に増加しているとの声が多く寄せられている。

中国向けを中心に小型機械の生産に僅かながら持ち直しの動きがみられる(亀田・金属加工機械製造業)、「海外生産向け産業機械部品の受注が増加傾向にある」「(大府・工業用プラスチック製品製造業)」「これまで低迷していた衣料品の売上に持ち直しの動きが出ている」「(宇都宮・百貨店・総合スーパー)

価格競争の激化

公共工事の削減に伴い、採算を度外視した受注獲得競争や、小売業などにおける消費者の低価格志向を意識した大幅な値下げなど、価格競争の激化による収益の減少を訴える声が多い。

公共工事において、採算を度外視したダンピング受注が横行しているため、受注額が前年同月より大幅に減少している(静岡・一般土木建築事業)、「ガソリンの仕入価格が横ばい傾向で推移しているものの、周辺ガソリンスタンドとの価格競争が激しく、販売価格は下落

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲62.3	▲63.9	▲58.0	▲58.3	▲69.5	▲59.1
2月	▲56.2	▲61.4	▲47.4	▲57.1	▲62.7	▲54.5
3月	▲49.3	▲52.6	▲35.6	▲50.0	▲57.7	▲52.1
4月	▲45.7	▲59.6	▲30.6	▲48.5	▲50.9	▲45.5
5月	▲39.7	▲55.3	▲25.4	▲34.6	▲46.0	▲39.5
6月	▲40.5	▲58.1	▲25.1	▲37.0	▲41.8	▲45.1
見通し	▲35.3	▲48.8	▲26.8	▲24.1	▲37.8	▲36.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

し、収益確保が困難な状況にある(横浜・化学製品卸売業)、「食料品の価格競争が激しく、売上・収益ともに減少している」「(古河・百貨店・総合スーパー)